

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり中庄(重心 児発)		
○保護者評価実施期間	R7年12月9日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R7年12月19日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援前には職員間で打合せを行い、支援の内容や分担を確認することが出来ている。また支援の終了後には振り返りを行うことで、気づいた点について情報共有をすることが出来ている。	1日の流れを確認し、当日の役割や担当を決めて支援を行っている。また、日々の振り返りを行う中で、個別支援計画書の取り組み内容についても改善点などを話し合っている。	職員の個人個人の専門性を高めていき、本人に対する支援を充実させることが出来るようにしていく。
2	同建物内の児童発達支援センターや同敷地内の小規模保育園と連携し、行事の開催や子ども同士の関わりを持つことが出来ている。	クリスマス会や七五三等、事業所単体ではなく合同開催をすることで、利用児同士のふれあいの機会を持つことが出来ている。また、勉強会等も合同で開催することも多く、保護者同士の繋がりを持つことが出来ている。	子ども同士のふれあいの機会を持ちながら、児童発達支援センターへの移行や、児童発達支援センターからの移行がスムーズに行えるようにしていく。また、敷地内の子どもたち同士の関わりだけではなく、地域の施設等に出向き、事業所外での子ども同士のふれあいの場を作っていく。
3	重心対応の事業所として、様々な職種を配置し運営することが出来ている。	自事業所の中では、作業療法士、理学療法士、看護師、保育士、介護福祉士などを配置して運営することが出来ている。また、同建物内には言語聴覚士や管理栄養士の配置があるため、必要に応じて適宜助言をもらうことが出来ている。	引き続き、多職種間での連携を取りながら、利用者に対してより良いサービス提供が出来るようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1部屋での支援体制となることで、食事、排泄、午睡、活動等が同時進行で行われることが多い。	限られた空間での支援となってしまう。	自事業所または、児童発達支援センターと協力することで、同建物内を共有しながら支援を行ったり、敷地内の建物を活用しながら子どもの様々な体験を安全に行えるようにしていく。
2	親子活動や兄弟児向けの活動、保護者向け勉強会等を開催するが、参加される方が限定的となっている。	保護者のニーズを事業所として確認できていない(内容や実施日等)。	年度始めに保護者アンケートを実施するなどし、保護者のニーズが何かを考えて計画を立案していく。
3			